

# 2018年5月期 決算説明会

2018年7月30日(月)



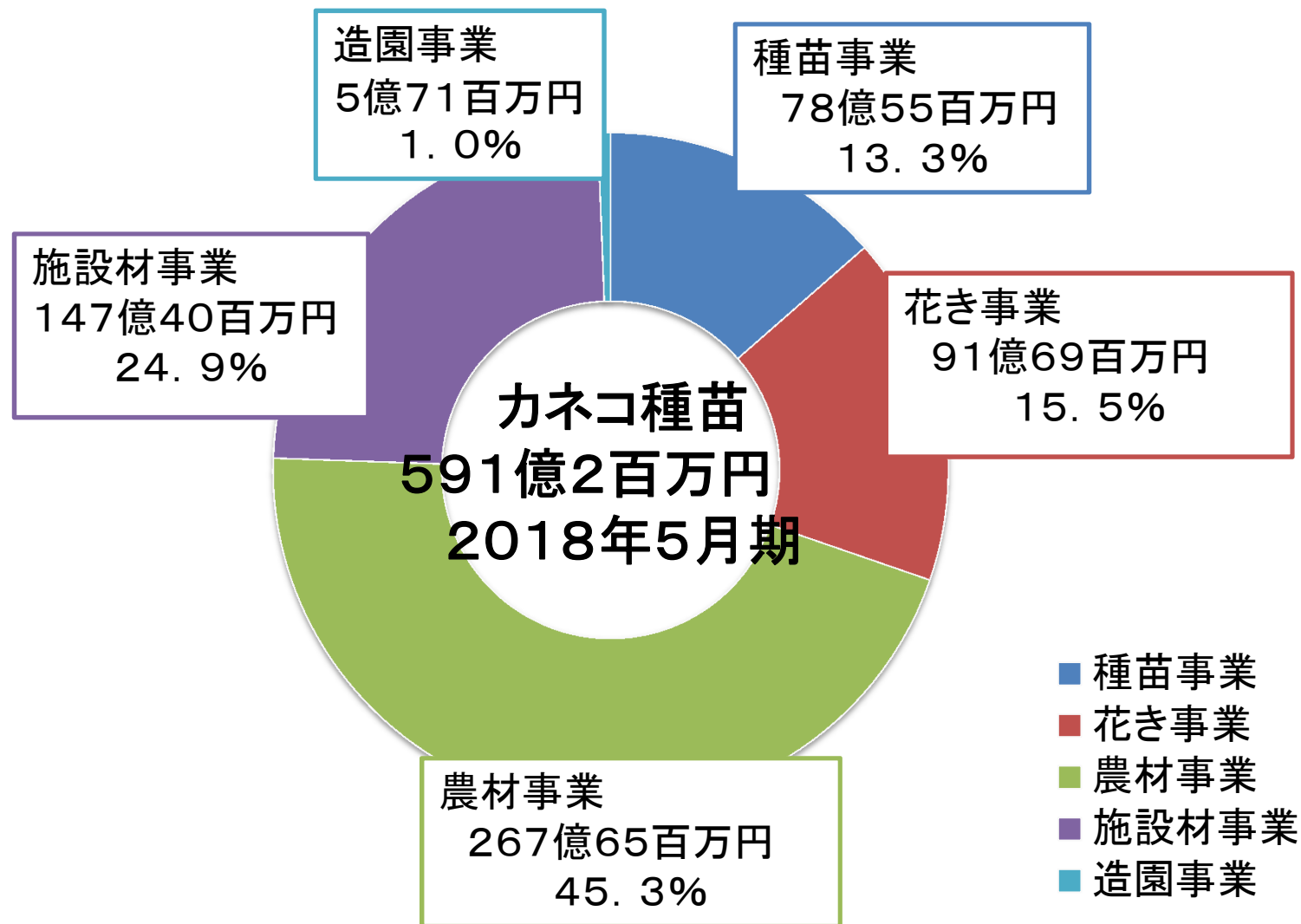
<http://www.kanekoseeds.jp/>

証券コード: 1376



# 決算概況

# 連結売上のセグメント別構成比



# 決算ハイライト

---

## 【売上高】

- ・ 591億2百万円(前年同期比2.2%増)
- ・ 施設材事業などでの販売伸長により増収

## 【営業利益】

- ・ 17億47百万円(前年同期比13.3%減)
- ・ 人件費の増加や物流費の高騰などにより販売費及び一般管理費が増加したことにより、営業利益が減少

## 【経常利益】

- ・ 18億91百万円(前年同期比10.6%減)
- ・ 営業利益の減少に伴い経常利益も減少

## 【親会社株主に帰属する当期純利益】

- ・ 9億78百万円(前年同期比34.3%減)
- ・ 減損損失を計上したことなどから減益

# 連結損益計算書

(単位:百万円)

	16/5月期	17/5月期	18/5月期	前期比
売上高	58,099	57,848	59,102	1,254
営業利益	2,144	2,015	1,747	△268
(営業利益率)	(3.7%)	(3.5%)	(3.0%)	—
経常利益	2,281	2,116	1,891	△224
(経常利益率)	(3.9%)	(3.7%)	(3.2%)	—
親会社株主に帰属する当期純利益	1,465	1,489	978	△510
(親会社株主に帰属する当期純利益率)	(2.5%)	(2.6%)	(1.7%)	—
1株当たり純利益(円)	124.83	126.86	83.35	△43.51

# 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	16/5月期	17/5月期	18/5月期	増減
流動資産	34,909	35,156	36,522	1,365
固定資産	8,277	8,212	8,473	261
資産合計	43,186	43,369	44,995	1,626
流動負債	25,077	23,806	24,566	760
固定負債	1,911	1,876	1,706	△170
負債合計	26,988	25,683	26,272	589
純資産合計	16,198	17,686	18,722	1,036
負債純資産合計	43,186	43,369	44,995	1,626
自己資本比率	37.5%	40.8%	41.6%	+0.8%

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	16/5月期	17/5月期	18/5月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,342	1,705	1,516
投資活動によるキャッシュ・フロー	△208	△27	△658
財務活動によるキャッシュ・フロー	△607	△1,264	△307
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△7	△7
現金及び現金同等物の増減額	1,526	405	542
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	71	—
現金及び現金同等物の期末残高	3,891	4,369	4,911

営業活動によるキャッシュ・フロー	売上債権(1億66百万円)及びたな卸資産(3億88百万円)が増加したことや、法人税等(7億18百万円)を支払うなどで資金を使用したものの、税金等調整前当期純利益(15億67百万円)の計上及び、仕入債務(7億15百万円)が増加したことなどにより資金を獲得したことや、減損損失(3億20百万円)及び減価償却費(2億27百万円)を計上したことなどにより、15億16百万円の資金を獲得いたしました。
投資活動によるキャッシュ・フロー	有形固定資産の取得による支出(6億16百万円)などにより6億58百万円の資金を使用いたしました。
財務活動によるキャッシュ・フロー	配当金の支払(2億94百万円)などにより3億7百万円の資金を使用いたしました。



# セグメント別業績

# セグメント別主要取扱商品

---

## ■ 種苗事業

野菜種子

牧草種子

ウイルスフリー種苗

## ■ 花き事業

花苗・家庭菜園用野菜苗

球根・花種子

家庭園芸用資材

## ■ 農材事業

農薬

被覆肥料

## ■ 施設材事業

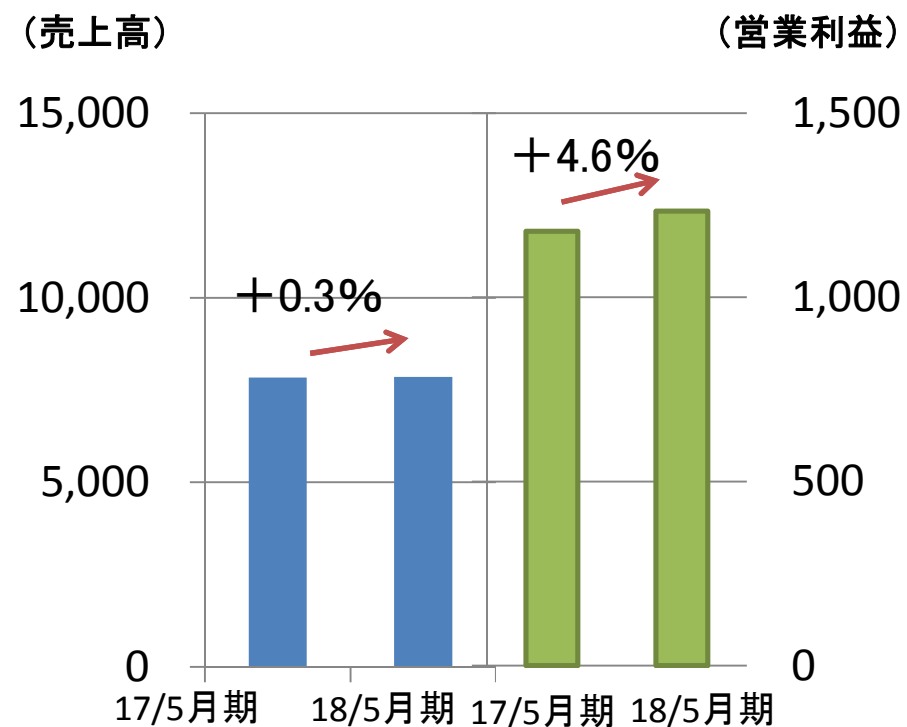
農業資材

温室・養液栽培プラント

## ■ 造園事業

造園・法面工事

# 種苗事業



(単位:百万円)

	17/5月期	18/5月期	増減率
売上高	7,835	7,855	0.3%
営業利益	1,179	1,234	4.6%

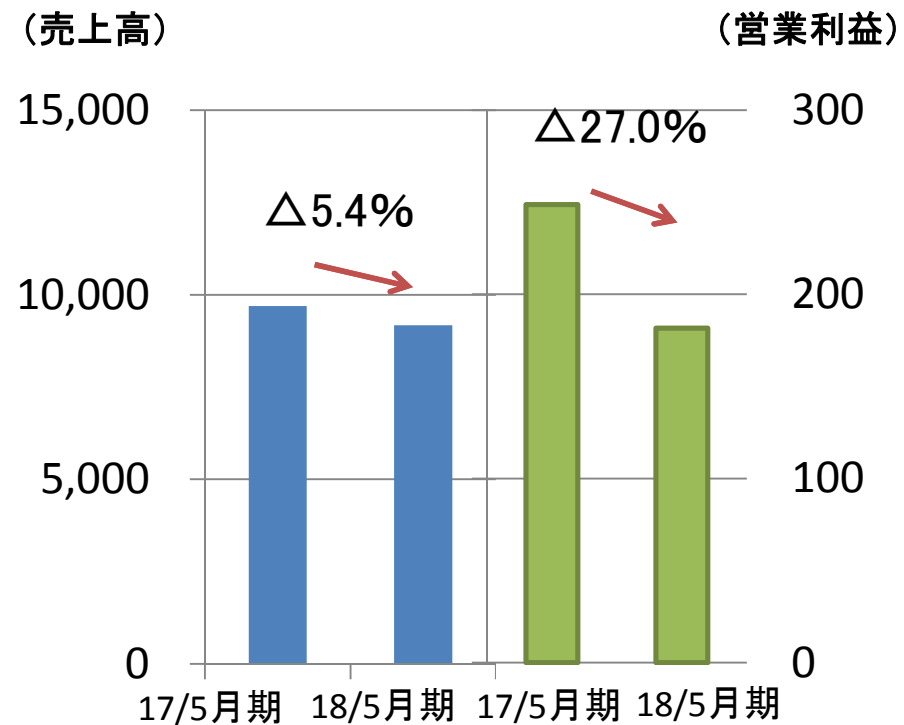
## 【セグメント事業内容】

野菜種子や牧草種子、ウイルスフリー苗及び種イモの委託生産・仕入・販売を行っております。

## 主な増加要因

- ・ 野菜種子の国内販売は、ホウレンソウなどの葉物類の販売は不振でしたが、ニンジンなどの根菜類は比較的順調で、春作については、スイートコーン、カボチャが伸長
- ・ 野菜種子の輸出は、欧米向けカボチャ、東アジア・南米向けニンジンが好調
- ・ 牧草種子関係では、飼料用トウモロコシの輸出、災害復旧用の芝種子、緑肥種子の販売が伸長
- ・ ウイルスフリー苗及び種イモ関係では、サツマイモ苗及びナガイモの種イモ等の販売が伸長
- ・ 野菜種子の輸出伸長などから採算性が向上し営業利益が増加

# 花き事業



(単位: 百万円)

	17/5月期	18/5月期	増減率
売上高	9,691	9,169	△5.4%
営業利益	248	181	△27.0%

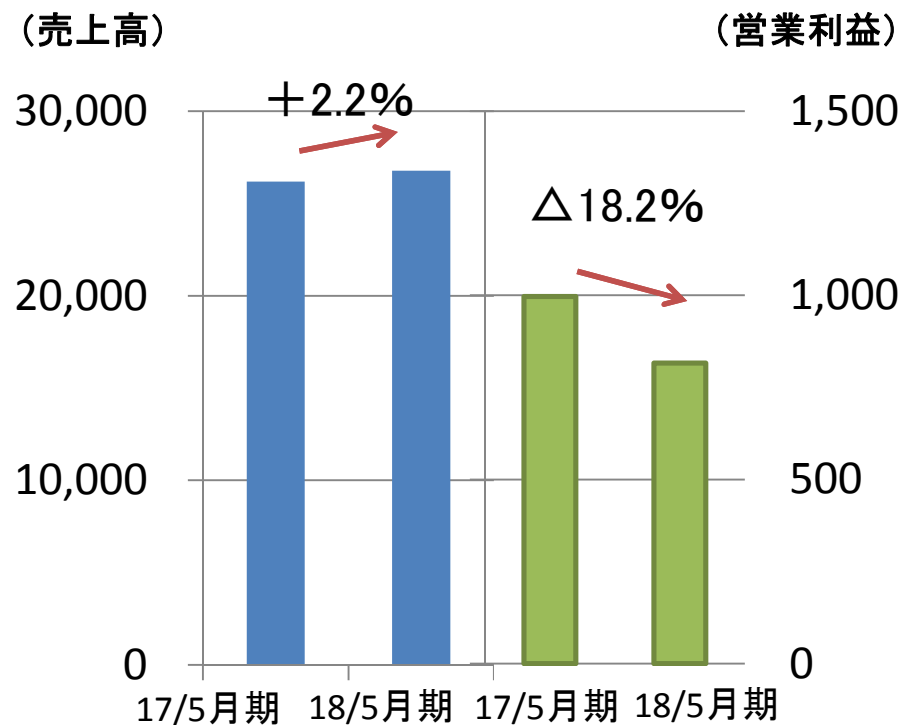
## 【セグメント事業内容】

家庭園芸愛好家向けに花き園芸用品や家庭菜園向けの野菜苗等の販売を行っているほか、営利栽培農家向けに自社開発品種の販売を行っております。

## 主な減少要因

- ・ 営利栽培農家向け花種子及び家庭園芸用花苗・野菜苗の販売が増加したものの、球根・家庭園芸資材の需要が低迷
- ・ 販売先の園芸事業からの撤退
- ・ 大手チェーン店の統合で既存商品の納入が他社へ移る等で減収減益

# 農材事業



(単位:百万円)

	17/5月期	18/5月期	増減率
売上高	26,179	26,765	2.2%
営業利益	996	815	△18.2%

## 【セグメント事業内容】

農薬の販売を中心に被覆肥料等の販売も行っております。

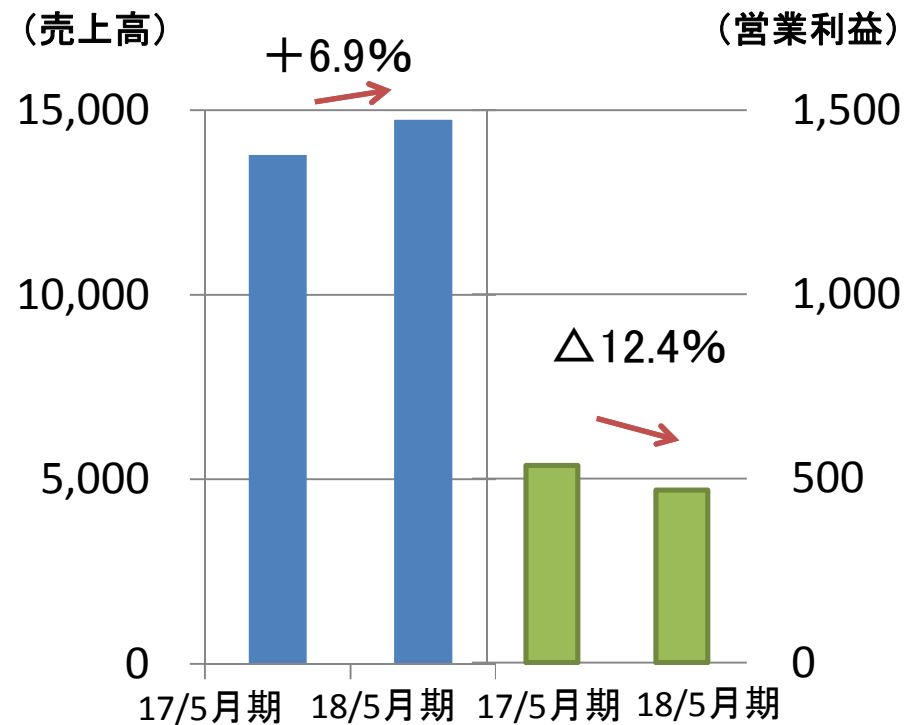
## 主な売上高増加要因

- ・ 新規薬剤の普及拡販や茎葉除草剤の伸長、関東地区においては、土壌消毒剤が順調に推移
- ・ オリジナル被覆肥料ベストマッチは米麦用販売が増加

## 主な営業利益減少要因

- ・ 人員の増加に伴う人件費の増加や物流経費の増加などにより営業利益が減少

# 施設材事業



(単位:百万円)

	17/5月期	18/5月期	増減率
売上高	13,789	14,740	6.9%
営業利益	535	468	△12.4%

## 【セグメント事業内容】

農業資材を仕入れ販売しているほか、当社独自の養液栽培プラント及び温室を設計・施工し、販売しております。

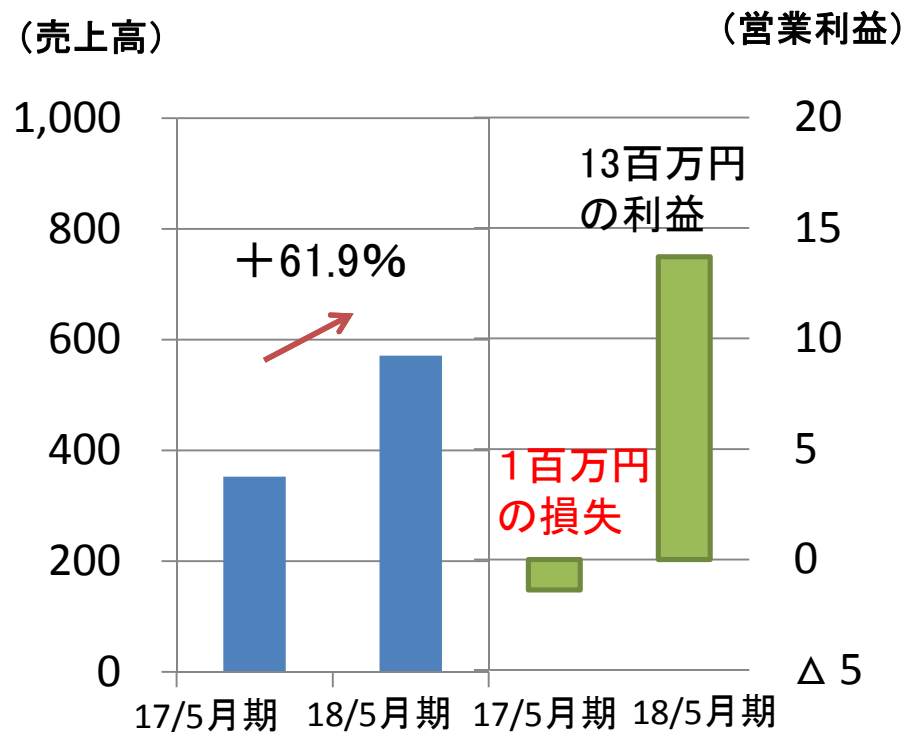
## 主な売上高増加要因

- ・ 農業用フィルムの拡販と新規得意先開拓が功を奏したこと
- ・ 小ロットや長尺な農業資材の配送にもタイムリーに対応できる当社配送体制が優位性を持ち、販売先の支持が得られたこと

## 主な営業利益減少要因

養液栽培プラントの受注減により、利益率が低下

# 造園事業



(単位:百万円)

	17/5月期	18/5月期	増減率
売上高	352	571	61.9%
営業利益	△1	13	—

## 【セグメント事業内容】

主に群馬県内において、造園工事や法面工事を官公庁及び民間から請け負い、設計・施工管理を行っております。

## 主な増加要因

工事完工高伸長等に伴い売上が増加し、利益も改善

# 2019年5月期見通し



# 通期連結業績見通し

(単位:百万円)

	17/5月期	18/5月期	増減率 (%)	19/5月期 計画	増減	増減率 (%)
売上高	57,848	59,102	2.2	60,000	897	1.5
営業利益	2,015	1,747	△13.3	1,900	152	8.7
経常利益	2,116	1,891	△10.6	2,000	108	5.7
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,489	978	△34.3	1,400	421	43.1

売上高	以下の増加要因により、売上高600億円で前年同期比1.5%を見込んでおります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 種苗事業 野菜種子関係でニンジン・スイートコーン、カボチャ等の国内販売の増加 日東農産種苗株式会社より事業を一部譲り受けて獲得した野菜品種の売上上乘せ</li> <li>・ 農材事業 茎葉除草剤が引続き順調に伸長</li> <li>・ 施設材事業 養液栽培プラントの受注回復</li> </ul>
営業利益及び 経常利益	上記売上高の増加により、営業利益19億円、経常利益20億円で増益を見込んでおります。
親会社株主に帰属 する当期純利益	営業利益及び経常利益の増加に加え、前期(18/5月期)計上した減損損失(3億20百万円)などの多額な特別損失の発生は、今期(19/5月期)見込まれないため、14億円で前年同期比43.1%とやや大幅な増益を見込んでおります。

# 中期計画と経営戦略

# 中期計画の進捗状況

## 中期計画

(単位:百万円)

	17/5月期 計画	18/5月期 計画	19/5月期 計画
売上高	58,100	59,500	61,000
営業利益	2,050	2,200	2,350
経常利益	2,200	2,350	2,500
親会社株主に帰属する当期純利益	1,470	1,570	1,670

## 実績:業績予想等

(単位:百万円)

	17/5月期 実績	18/5月期 実績	19/5月期予想 (18年7月公表)
売上高	57,848	59,102	60,000
営業利益	2,015	1,747	1,900
経常利益	2,116	1,891	2,000
親会社株主に帰属する当期純利益	1,489	978	1,400

# 中期計画の進捗状況

## 重要方針の状況

### グローバルビジネスの推進と新たな海外ビジネスの確立

- ・アフリカ向けは、キャベツの新規品目が市場に定着
- ・フィリピン所在の海外子会社(フィリピン・ナス・カネコ・シーズ・コーポレーション)と連携して開発した熱帯・亜熱帯向け飼料用トウモロコシの売上が順調に推移
- ・台湾へ養液栽培システムを輸出販売

### 国内マーケットの競争力強化

- ・北海道・東北・九州地区などの国内マーケットでの競争力強化  
上記地区の当期(18/5月期)売上高は、前期(17/5月期)と比べてトータル2.4%アップ

## 19/5月期計画と予想の差異の発生要因について

19/5月期計画と予想との差異の発生要因は、以下のとおりであります。

### 売上高

- ・種苗事業は計画並みを見込んでおりますが、花き事業において、需要低迷や販売先の園芸事業からの撤退などにより計画未達を見込み、売上高については、計画値より減少を予想しております。

### 利益(営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益)

- ・上記の売上高の減少に加え、施設材事業において、同業他社の事業撤退に伴い、当該販売ルートを当社が取込むなどして売上高は計画並みを見込むものの、高齢化や人手不足による施設栽培面積減少が需要低迷につながることから粗利益率が低下を予想いたします。また人件費の増加や物流費の高騰などにより販売費及び一般管理費の増加が見込まれることから、利益についても計画値より減少を予想しております。

# 事業環境

## 農業を取り巻く環境

国内

### マイナス要因

食料消費の減少・農業の担い手の高齢化・  
家庭園芸分野での需要低迷

### プラス要因

国内農業強化のための農政・大規模化・輸出増加

海外

急激な人口増加による食料需要の拡大

増産を支えてきた単位面積当たりの収穫量の伸びが鈍化

新興国の経済発展により、高品質な野菜等への需要増

当社グループの戦略

---

当社グループの経営基本方針

ハイテクと国際化

農業関連の総合企業

グリーン事業のトータルプランナー

# 当社グループの戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業  
グリーン事業のトータルプランナー

国内①

マイナス要因

食料消費の減少・農業の担い手の高齢化・  
家庭園芸分野での需要低迷

プラス要因

国内農業強化のための農政・大規模化・輸出増加

高品質な野菜・牧草・  
花の種子を開発



養液栽培プラントの開発



高性能で使い易い  
被覆肥料の開発



高品質・省力化等に対応した新商品・新品種の開発により、国内での販売シェアアップを図る。  
加えて、本年4月に神奈川県横浜市所在の日東農産種苗株式会社より、事業の一部を譲受け、  
商品ラインナップや開発力を強化

# 当社グループの戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業  
グリーン事業のトータルプランナー

国内②

マイナス要因

食料消費の減少・農業の担い手の高齢化・  
家庭園芸分野での需要低迷

プラス要因

国内農業強化のための農政・大規模化・輸出増加

農作業の効率化・省力化に効果があり、かつ、  
安定的で高品質な野菜生産にも寄与する温  
室・養液栽培プラント、被覆肥料、農業資材、  
農薬販売における高いコスト競争力と企画提  
案力



「農業関連の総合企業」として、国内の人手不足や農業の担い手の高齢化などに対応することを念頭に、高いコスト競争力と種苗会社という栽培ソフト面の強みや企画提案力を生かした供給体制の構築



# 当社グループの戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業  
グリーン事業のトータルプランナー

国内③

マイナス要因

食料消費の減少・農業の担い手の高齢化・  
家庭園芸分野での需要低迷

プラス要因

国内農業強化のための農政・大規模化・輸出増加

営利栽培農家向け

花色や花型、草姿など  
が優れ、生産性の高い  
花き品種の開発



家庭園芸愛好家向け

生活に彩と潤いを  
添える花き商材や  
家庭菜園用野菜苗を  
企画提案



「グリーン事業のトータルプランナー」として新たな花き品種の開発や企画提案を行うことで、売上及び利益の確保に取り組む

# 当社グループの戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業  
グリーン事業のトータルプランナー

海外①

急激な人口増加による食料需要の拡大

増産を支えてきた単位面積当たりの収穫量の伸びが鈍化

新興国の経済発展により、高品質な野菜等への需要増



高収量や高品質野菜・牧草種子を開発し海外へ販売

高い収穫量や高品質野菜へのニーズを満たすことにより、販売増加を図る。

# 当社グループの戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業  
グリーン事業のトータルプランナー

海外②

急激な人口増加による食料需要の拡大

増産を支えてきた単位面積当たりの収穫量の伸びが鈍化

新興国の経済発展により、高品質な野菜等への需要増



野菜・牧草種子の海外新規マーケットの開拓  
海外子会社(フィリピン・タイ)との連携を活かした海外向け新商品・新品種の開発  
海外採種地での高品質・安定的かつ低コストでの種子生産  
種子等の海外生産拠点の拡充によるリスクマネジメントの強化と、種子のグローバル供給体制の構築

# カネコ種苗株式会社概要

会社名	カネコ種苗株式会社
所在地	群馬県前橋市古市町一丁目50番地12
創立	1947年6月
代表者	金子 昌彦
資本金	14億91百万円(2018年5月末現在)
上場	東京証券取引所 市場第一部
発行済株式数	11,772千株(2018年5月末現在)
従業員数	612名(連結対象会社合計 653名) (2018年5月末現在)
グループ会社	3社(連結子会社 2社・非連結子会社 1社) (2018年5月末現在)
問い合わせ先	財務部 専務取締役財務部長 長谷 浩克 E-mail: h-hase@kanekoseeds.jp TEL: 027-251-1619 FAX: 027-290-1056